

熱意が道をきりひらく

株式会社 Mimmy 代表取締役 COO 守屋 亮（高5 6期・2004年卒）
法政大学経営学部卒／関西学院大学大学院経営戦略研究科修了

■はじめに

今、皆さんは「先輩からの手紙」をどのような気持ちで手に取って読んでいますか？将来の進路に関して何かを知りたいと思って読んでいます。あるいは先生に渡されてなんとなく読んでいくという感じでしょうか。ちなみに私が学生の時にこのようなものがあれば、確実に後者のタイプです。読んですらいらないかも……。立高時代から本当に自由にしてきた私の話でも、何か一つでも皆さんの将来に役立つことがあるといいなと思います。

■立高時代の私

「自主自律」

今も昔も変わらない立川高校の教育指針ですね。私の立高での日々は、本当にこれを実践していた学生時代でした。中学時代、地域でも有名な鬼監督のいる超スパルタ野球部に所属し、今では考えられないような厳しい練習を朝から晩までやっていました。立高でも野球部に入ったのですが、そこで待ち受けていたのは、これまでとは真逆の部活動でした。監督はOBの大学生がやって下さっており、朝練や昼練は大学があるので来られません。午後の練習も定時制があるため17時で練習終了。でも大会で対戦するのは日大三・早実・東海大菅生など、朝から晩まで野球をやっている強豪私立なわけです。せっかく高校野球をやるのであれば、甲子園を目指してやりたい。でも練習時間では絶対に敵わない。であれば、少ない時間でどれだけ効率よく練習できるかを考えるほかありません。今でこそ当たり前ですが、科学的なトレーニングや食事の方法を取り入れたり、とにかく自分たちで工夫に工夫を重ねて毎日を過ごしていました。

自分たちの代の新チーム発足時には「本気で甲子園行くのであれば、夏ではなく春の選抜を21世紀枠で出場する！」と意思統一して秋季大会に臨みました。その結果、甲子園には届きませんでした。いわゆる強豪私立を倒し、公立校では唯一ベスト16まで勝ち進みました。キャプテンでエースとしてチームを引っ張りそこまで行けたのは今でも大きな自信の一つです。

野球ばかりの日々でしたが、今振り返っても後悔は何もないですし、むしろもう一度高校時代に戻っても同じことをしたいと思います。

みなさんにお伝えしたいのは、今、一番大事なのは毎日何か一生懸命になって欲しいということです。私はそれが野球だった、というだけです。その時の仲間とは今でも本当に仲がよく、卒業してから18年経ちますが、必ず毎年立川で忘年会をしています。

■就職、そして起業の決断

大学は法政大学に進学しましたが、そこでも軟式野球部に入り、野球とバイト（もちろん勉強も）に明け暮れる毎日でしたが、卒業後は松下電工（現パナソニック）という会社に入社をしました。皆さんはパナソニックというと「家電」のイメージがあるかと思いますが、実はグループ全体での家電の売り上げは2割強しかありません。最初は営業からスタートし、私も家電ではなく照明や配線器具といった設備機器をメインに販売をしていま

した。営業の仕事というと「3K」（「危険・キツイ・汚い」ではなく、「勘・経験・根性」です。笑）で泥臭い仕事と思われがちで、今の若い人にはあまりいい印象がないかもしれませんが、仕事・商売において、お客様と直接会うことができ、そして直接感謝を言われる仕事は営業しかありません。私の営業先はB2B（法人営業のこと）でした。初めはもちろん苦労も多く、お客様との関係性を築くのに苦労して、怒られている夢を見て夜中2時に目を覚ますようなこともありました。異動するときにはお客様の会社で私一人の送別会を開いていただき、「うちの会社のために頑張ってくれてありがとう」と取引先の専務から感謝を言われて社員全員からの寄せ書きをいただいたことは今でも忘れられません。

ちなみにその異動というのは、辞令が出て別の部署に行くというものではありませんでした。パナソニックでは、いわゆる「FA制度」のような人事制度があり、自ら手を上げて違う部署に行くことが可能です。せっかく会社に入ったなら社長の近くで働いてみたいと思い、一念発起で大阪の本社経営企画部に応募をして運良く採用となりました。が、ここではこれまで培ってきた能力とは全く違うものを求められ、毎日頭が痛くなるくらい考えることが多い日々でした。経営に関する知識も全く足りないと感じ、平日夜や週末を利用して大学院にも通い、MBAを取りにも行きました。自腹で。でもその4年間の仕事は本当に濃密で、これまで全く縁のなかった海外との仕事や、大企業の経営者のマインドや視点を肌で感じることができました。新卒で最初に入れるような部署ではないでしょうが、ぜひ社員になったなら、一度は経験してほしい仕事です。

大企業の営業（川下）から経営企画（川上）までを経験し、それなりに成果を残して行った中で、「自分の判断と力で何かを成し遂げたい」という思いを持ち始めるようになりました。そんな時、立高野球部の同期に声を掛けられ一緒にご飯を食べにいくと、その相手も大手企業で同じような経験をし、次のステップとして起業をしたい、一緒にやらないか、と誘われました。世の中全てはタイミングだなと思いました。ちなみに彼を立高に誘ったのは私でした。中学時代、進路に悩んでいた彼と一緒に立高行って野球やらないかと誘ったのです。

その後、2019年に会社を立ち上げ、今は子供向けのオンライン体験学習サービス「Mimmy アドベンチャー」を提供しています。立高生2人で立ち上げた会社ですので、会社の雰囲気はまさに「自主自律」。少人数のスタートアップ企業のため、自分で考え、自分で行動しないと時間がいくらあっても足りません。社員は10人くらいのまだまだ小さな会社ですが、自分で責任を持って働くことを強く実感できる仕事は他にはないと思います。

■大事にしている想い

私が大事にしている3つの行動指針があります。

「常に考え続ける」「迷ったら行動する」「人の繋がりを大事にする」

当たり前のように感じる人もいるかもしれませんが、人間はやはり今の環境を変えることはなかなか出来ません。（それができる人はいわゆるイノベーター。ほぼ変人。笑）でも真面目に挑戦している人のことは、必ずみんなが応援をしてくれます。私も自らの意思で異動をしたり、安定を捨てて起業をしましたが、前職の会社の人、立高の先輩方、昔の友人など、みんなが応援してくれているので毎日頑張っていけています。実際にビジネスにおいても助けてもらっていることがたくさんあります。

■現役立高生のみなさんへのメッセージ

自分自身、正直普通の立高の先輩方とは少し違う人生を歩んでいると思っています。でもその色々な経験が全て自分の力となっています。皆さんも大学や職業・就職先を知名度で選ぶのではなく、「自分が何をしたいのか、どんな人生の物語を描きたいのか」という想いを大切に、常に挑戦を続けてみてください。自分の評価は他人ではなく、自分ですればいいのです。卒業後に会う立高の先輩方は皆、自分の軸をしっかりと持っている方ばかりです。ぜひ自分の可能性を信じて進んでください。いち先輩として応援しています！